令和６年度芙蓉保育園自己評価

保育所保育指針において、保育士及び保育所の自己評価並びにその公表が努力義務とされています。
このことを踏まえ、芙蓉保育園は保育の質の向上を図る為に、保育士の自己評価を年度末に年一回行っています。この結果を踏まえ、今後もより良い保育を提供できるように努力していきます。

◎　教育及び保育の配慮

・保育士の言葉や仕草、態度で子どもたちの反応が変わったり、発達にも影響するため自分の行動には気を付けるように意識してきた。自我の芽生えを受け止め「いや」「できない」という時は感情的にならないように心がけた。
・子どもたち同士のトラブルでは、双方の気持ちを汲み取り、子どもが納得できるように分かりやすい言葉で仲立ちするよう配慮した。言葉で伝えられないため手や口が出てしまうトラブルがあったが、子どもの行動を否定せず、受け止めてもらえたという安心感がもてるようにした。
・子どもが求めている関わりができるよう、状況や感情の理由をよく考えるよう心がけた。
・一方的な関わりにならず、子どもの主体性を引き出すことが難しいと感じる。遊びによっては様子を伺う子もいるため、その子のタイミングで安心して遊び始められるような雰囲気作りをした。

◎　環境を通して行う保育

・「やってみたい」という気持ちを、できる限り見守ることで「できた」という思いが感じられるようにした。
・子ども自身が遊びを発展させられるよう、発達や特性に応じた配慮や、環境作りを行えるように技術や知識の習得に励みたい。
・戸外遊びでは、身近な動植物を観察したり触れたりすることで関心を深めることができた。

◎　職員の資質向上

・研修に参加し保育に関する知識を向上させるための情報収集に努めていきたい。
・時間に追われてしまうことが多いが、気持ちに余裕を持ち、今後も日々の保育の振

り返りの時間を確保するようにしていく。
・情報の共有や互いの保育の見直しができるよう、引き続き職員間での話し合いの時間を多くしていく。

◎　保護者に対する支援

・子育ての疑問や悩みに対し、分かりやすい言葉で伝えることを心がけた。対応による様々な反応を伝えていく中で、たくさんの方法があること、少し視点を変えることの大切さも伝えるようにした。園と家庭での姿が異なることも多いため、具体的な様子を連絡帳や送迎時に伝えることで、成長の喜びを共有できた。保護者の思いや悩みをそのまましっかりと受け止めることの大切さを感じた。
・保護者が安心して子育ての悩みや考えを話せるような対応を心がけた。内容によって、誤解を生まないような言葉選びや、伝え方に悩むこともあった。いづれにしても、日頃からコミュニケーションを取り信頼関係をを築いていく必要があると感じた。